

これだけは やっておきたい 防災対策4選

+α

「南海トラフ地震」は今後30年の間に70%～80%の確率で発生すると予想されており、市内での想定最大震度は「震度6弱」とされています。さらに、南海トラフ沿いの広範囲に被害が及ぶため、国、県などからの支援物資は3日以内には届かないとも言われています。

このような自然災害に備えるためには各家庭による自助・地域による共助が何より重要です。まずは、ご家庭でできることを確認しましょう。

問合せ 危機管理課 ☎ 9833・2751

01

家具の固定

阪神淡路大震災では、負傷者の4割以上が家具の転倒によるものでした。固定していない家具が凶器になる可能性があります。

■あなたに代わって

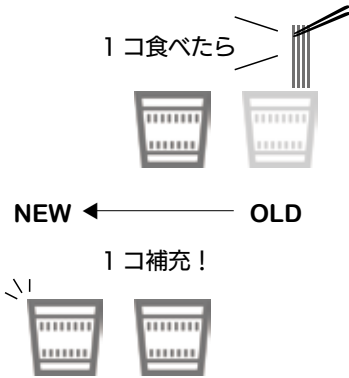
家具を固定します！

65歳以上のみの世帯など、家具の固定器具を自力で取り付けることが困難な世帯を対象に、取り付け費用を5品まで市が負担する家具転倒防止事業を実施しています（固定器具は自費）。詳細は危機管理課まで。

02

備蓄

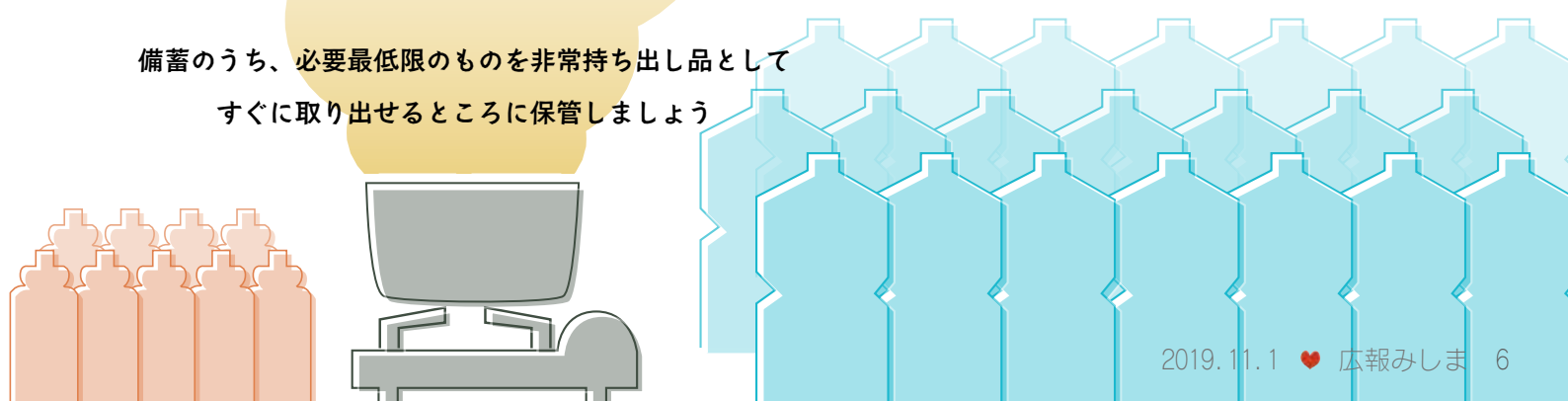
一度に家族分を用意するのは大変です。そこで、家で普段食べている缶詰・ラーメン・ドライフードなど消費期限が6ヶ月以上の食品を多めに買い、食べたら買い足すローリングストック法をおすすめします。



7日間分の備蓄をしましょう（例：大人2人）

- 水.....2L ペットボトル× 21本
(大人は1人1日3Lを目安に準備しましょう)
- カセットコンロ..... ガスボンベ× 9本
(季節によって変動があります)
- 食糧..... 3食×7日×2人= 42食分
(インスタント食品、乾麺、缶詰など)
- 携帯トイレ..... 5回×7日×2人= 70回分
そのほか常備薬、洗口液、体拭きシートなど

備蓄のうち、必要最低限のものを非常持ち出し品として
すぐに取り出せるところに保管しましょう





からのお知らせ

東京電力パワーグリッドでは、お客さまに安全・確実に安定した電気をお届けできるよう、日々、設備の点検・改修を実施しております。

しかしながら、本年9月に発生した台風15号のように、災害などの原因により停電が発生し、長時間ご不便をおかけしてしまうこともございます。

停電情報は、東京電力パワーグリッドのホームページ (<http://teideninfo.tepco.co.jp/>) または、TEPCO公式スマートフォンアプリ「TEPCO速報」にて、停電地域や復旧時間の見込みなどをお知らせしております。

なお、切れてたれ下がっている電線には、絶対に触らないでください。その他の注意点は、東京電力パワーグリッドのホームページをご覧ください。

問合せ

東京電力パワーグリッド

停電発生時

☎ 0120・995・007

上記が利用できない場合

☎ 03・6375・9803 (有料)



◀ 停電情報は
こちらから

03 安否確認

地震が起きたとき、必ずしも家族が一緒にいるとは限りません。家族がばらばらのとき、安否確認のひとつの手段として、災害用伝言ダイヤル「171」があります。
安否確認の方法を家族と話し合ってみてください。



04 トイレ対策

災害時、停電、断水、下水道管の破損など、ライフラインが停止した場合に困るのがトイレ問題。1日に5回程度行くとすると、一人当たり35回分の携帯・応急トイレが必要となります(使用・作製方法は広報みしま9月号10号をご覧ください)。さらにそれに応じたトイレレットペーパーや生理用品なども必要になります。
衛生状況による二次被害を防ぐためにも、この機会にトイレ問題について考えてみてください。

pick up!

感震ブレーカー設置

東日本大震災の本震による火災のうち過半数が電気を原因とする火災でした。感震ブレーカーは、一定以上の揺れを感知して自動で電気を止めるため、電気火災の防止に有効です。

感震ブレーカー(分電盤タイプ)



■ 感震ブレーカー補助事業を
ご利用ください
令和元年度に新設しました!

補助対象者

- ▼ 自ら所有、または居住する市内住宅に設置する人(賃貸住宅の場合、当該住宅の居住者)
- ▼ 市内に新築する一戸建ての住宅に設置する人

※1人につき1回限り

補助額…購入および設置工事に要する経費

▼ 既存住宅…2/3以内で千円未満を切り捨てた額

(上限…2万5千円)

▼ 新築…1万円